

滲出性中耳炎



子ども達に「**勇気**、**夢**として**笑顔**」を

滲出性中耳炎とは

鼓膜の奥（中耳腔）に液体が溜まっている状態で、液体が溜まることにより鼓膜などの動きが悪くなり、聞こえにくさにつながります。

急性中耳炎と違い、大部分が発熱や耳痛を伴いません。

大人の場合は、「聞こえにくい」「音がこもる」などといった症状を訴えますが、子どもの場合は自分からうまく訴えることはできませんので、日頃から子どもの様子を注意深く見守る必要があります。



子どものサイン

1. 「えっ？」と聞き返すことが多くなった
2. 聞き違えることが多くなった
3. 以前に比べ、テレビの音を大きくしたり、テレビに近づいてみたりするようになった
4. 「耳がへん、気持ち悪い」
5. よく耳をさわる



など、子どもの言動に注意して下さい

治療

1. 耳管通気

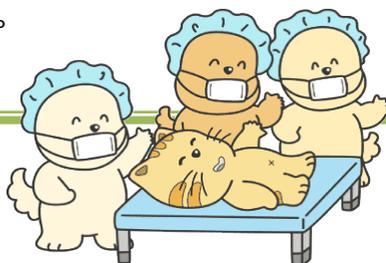
ポリツェルゴム球により直接鼻から空気を送り、「ラッパ」「ガッコウ」と言わせ、鼓膜の内外の圧差をなくす処置

2. 鼓膜切開

鼓膜奥に溜まっている液体を除去するために、鼓膜に1~2mm程度の穴をあけます。

穴は5日程度で閉じてしまいますので、穴が自然閉鎖するのを阻止するため、穴の部分にチューブを留置する方法（鼓膜チューブ留置法）もあります。

鼓膜チューブ留置法の場合は、母子センターでは全身麻酔にて行います。



鼓膜切開後や鼓膜チューブが入っている間は…

普段通りで結構です。ただし、鼓膜の中に水が入りやすい状態になりますので、入浴や洗髪時には気を付けてください。また、プールなどの時は耳に水圧がかからないように、潜水・飛び込みは禁止です。





地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター

<耳鼻咽喉科>

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

患者支援センター TEL 0725-56-1220

FAX 0725-56-5605